

(別紙2)

令和6年度上期「米子サン・アビリティーズ」モニタリング評価表〔令和7年2月〕

施設名	米子サン・アビリティーズ	
施設所管課	福祉保健部 障がい者支援課	
指定管理者名	団体名	社会福祉法人 養和会
	所在地	米子市上後藤 8-9-23
指定期間	令和3年4月1日 ～ 令和8年3月31日	
選定方法	公募 ・ 非公募	
施設の設置目的	障がい者のための機能回復訓練、健康増進、交流の場として設置する。	
主な実施事業	スポーツ講座（ふうせんバレーボール等）、教養文化講座（書道等）、施設貸出 スポーツ相談、障がい者スポーツ指導	

評価項目	評価基準	評価	特記事項
I 履行の確認 (60点)			
1 施設全般の管理運営に関する業務			
(1) 管理体制	施設の管理体制が明確になっており、基準に基づいた適切な人員配置がなされているか 安全対策、危機管理体制などが十分に講じられているか	B	資料により確認 職員配置は適正、危機管理体制も取られている。
(2) 職員研修	職員の業務に必要な資質・能力の向上を図るための研修・教育が適切に行われたか	B	資料により確認 福祉や接遇の研修を受けている。
(3) 利用促進業務	利用者拡大のための利用促進業務が適切に行われたか	B	通信発行での勧誘
2 利用者に関する業務			
(1) 利用状況	利用者数・稼働率等は適切な水準であるか ※1	B	事業報告書により確認 適切な水準である。
(2) 利用者の要望把握等	利用者の要望の把握及びその実現策は適切に行われているか	B	報告及び相談により確認 意見箱の設置等で対応している。
3 保守点検及び清掃等の業務			
(1) 保守点検業務	基準に基づき、保守点検が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料及び事業報告書により確認 適切である。
(2) 清掃・維持業務	基準に基づき、清掃業務・維持管理が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	目視により確認 利用者への配慮ができている。
(3) 保安・警備業務	基準に基づき、保安・警備業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料等により確認 適切である。
(4) 修繕業務	基準に基づき、修繕業務が適切に行われたか 第三者に行わせる業務は必要最小限の範囲か	B	資料及び報告により確認 必要に応じて出来ている。
4 自主事業の実施に関する業務	事業計画書に沿った自主事業が適切に行われたか	B	事業報告書により確認 適切に実施されている。

5	情報公開・個人情報に係る措置	情報公開・個人情報保護に係る措置は適切に行われたか	B	資料により確認 適切である。
6	管理目標	施設の現状を正しく認識し、今後の在り方についての提案は具体化されているか	B	報告及び相談により確認 設備の不具合箇所について協議中

Ⅱ サービスの質の評価（25点）

1	利用者満足度	利用者へのサービスの質を維持・向上させるための提案は具体化されているか 利用者アンケート等を実施し、その結果は妥当であるか	B	資料により確認 利用者の要望に答えている
2	維持管理業務	日常清掃業務や衛生管理、備品などの設備の維持管理は適正に行われ、良好な状態で施設の利用が行われているか	B	資料及び目視により確認 適切に行われている。
3	運営業務	事業運営について、サービス水準の向上のための創意工夫が見られるか 利用許可などの利用者への接客・対応は適切であるか	B	報告及び相談により確認 適切に対応できている。
4	自主事業	実施された事業内容は、施設の設置目的に沿い、サービス水準の向上に寄与する質の高いものであるか	B	資料により確認 妥当である。
5	施設の効用	施設の効用を最大限に発揮し、設置目的の達成に資することができる管理運営内容であったか	B	資料により確認 適切に管理運営されている。

Ⅲ サービスの安定性の評価（15点）

1	事業収支	指定管理業務の事業収支は妥当であるか ※2	B	事業報告書により確認 おおむね予算どおりである
2	経営状況	指定管理業務の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※3	B	資料により確認 妥当である。
3	団体等の経営状況（年度ごと）	団体の経営状況分析指標の結果は妥当であるか ※4		

【総評（所管課評価）】 4月に自主事業の車いすバスケットボールの講師を変更し、昨年より参加者が増加。6月からソーシャルフットボールを新しく自主事業として開催。7月は皆生温泉海遊ビーチでサップ体験を開催。8月は小学生を対象に、夏休みの自由研究応援企画としてパラスポーツ体験会を開催するなど、パラスポーツを通じた共生社会の実現を目的とした事業を展開している。	合計点 (57) 点/ (95) 点 $\times 100 = (60)$ 平均点 (3.0) 点
---	--

※施設の性格や設置目的により、評価項目は追加、変更できる。

※評価区分 A（優良）＝協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた管理内容である。（5点）

B（良好）＝協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った管理内容である。（3点）

C（課題含）＝協定書等の基準を遵守しているが、管理内容の一部に課題がある。（1点）

D（要改善）＝協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な管理内容である。（0点）

【補足資料】

1 利用状況

項 目	本年度〔令和6年4月～令和6年9月〕 A	前年度〔令和5年4月～令和5年9月〕 B	対 比 A－B	対 比 A/B（％）	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
開館日数	156	156	0	100.0	
施設利用者数	10,307	9,714	593	106.1	
施設稼働率	100.0	100.0	0.0	100.0	
事業開催数	55	55	0	100.0	

2 事業収支

（1）収 入

項 目	本年度〔令和6年4月～令和6年9月〕 A	前年度〔令和5年4月～令和5年9月〕 B	対 比 A－B（円）	対 比 A/B（％）	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
利用料収入	461,400	421,690	39,710	109.4	
指定管理料	7,904,000	7,904,000	0	100.0	
自主事業収入	0	0	0	0.0	
受託事業収入	0	123,000	-123,000	0.0	実績
雑収入	81,960	79,717	2,243	102.8	
受取利息配当金収入	176	10	166	1760.0	実績
合 計	8,447,536	8,528,417	-80,881	99.1	

（2）支 出

項 目	本年度〔令和6年4月～令和6年9月〕 A	前年度〔令和5年4月～令和5年9月〕 B	対 比 A－B（円）	対 比 A/B（％）	対比が±20%を超える場合は増減理由を記載
人件費	5,151,775	6,049,859	-898,084	85.2	
消耗品費	182,031	164,663	17,368	110.5	
光熱水費	1,079,509	927,691	151,818	116.4	
外部委託費	526,729	474,012	52,717	111.1	
修繕費	80,352	127,050	-46,698	63.2	実績
その他	1,220,302	1,016,650	203,652	120.0	実績
合 計	8,240,698	8,759,925	-519,227	94.1	

3 経営状況分析指標

項 目	本年度〔令和6年4月～令和6年9月〕 A	前年度〔令和5年4月～令和5年9月〕 B	対 比 A－B	対 比 A/B（％）	備 考
①事業収支	206,838	-231,508	438,346	-89.3	実績
②利用料金比率	5.5	4.9	0.5	110.5	
③人件費比率	62.5	69.1	-6.5	90.5	
④外部委託費比率	6.4	5.4	1.0	118.3	
⑤利用者当たり 管理コスト	799.5	901.8	-102.3	88.7	
⑥利用者当たり 自治体負担コスト	766.9	813.7	-46.8	94.3	

①事業収支：（収入－支出）

事業全体が黒字で施設の管理運営ができていどうか確認する。赤字の場合は、管理継続性の面での課題を解決し、黒字化のための方策を検討する。

②利用料金比率：（利用料金収入/収入×１００）

収入に占める利用料金の割合。指定管理者の収入源がどこにあり、それが安定したものであるかを確認する。

③人件費比率：（人件費/支出×１００）

支出に占める人件費の割合。支出の中で人件費が減らされすぎていないか、又は費用がかかりすぎていないかを確認する。

④外部委託比率：（外部委託費合計/支出×１００）

支出に占める外部委託費の割合。外部委託に過度にシフトしていないかを確認する。

⑤利用者当たり管理コスト：（支出/延べ利用者数）

利用者１人当たりにかかる費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

⑥利用者当たり自治体負担コスト：（指定管理料/延べ利用者数）

利用者１人当たりにかかる自治体の費用。前年度や事業計画との比較、類似施設との比較により施設の効率性を確認する。

4 団体等の経営状況（年度ごと下期に実施し、上期では行いません。）

項 目	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	備 考
①自己資本比率	83.7%	79.2%	80.5%	80.0%		
②流動比率	191.7%	186.9%	217.1%	200.6%		
③固定長期適合率	92.9%	91.9%	89.5%	88.5%		
④総資産経常利益率	4.2%	1.0%	2.1%	0.9%		
評 価	（以上の指標を参考に評価する。）					

※貸借対照表と損益計算書を基に計算する。太枠内に今年度の数値を記載し、左側に過去4年分を記載する。

①自己資本比率

総資産（資産合計）に占める自己資本（純資産合計）の割合を示した指標。どれだけ借金に頼らず経営をしているかを示す。比率が高いほど借金（負債合計）に頼る割合が低く、経営が安定していることを示す。一般的には、70%以上なら理想企業、40%以上なら倒産しにくいとされている。

自己資本比率（%）＝自己資本÷総資産×100 【例】 $800 \div 2,000 \times 100 = 40.0\%$

②流動比率

団体の短期的な支払能力を示す指標。1年以内に現金化できる資産を「流動資産」、1年以内に支払を要する負債を「流動負債」といい、「すぐに準備できるお金」と「すぐに返さないといけないお金」のバランスを比較する。流動資産（すぐに準備できるお金）の方が多いほど、支払能力が高いことを示す。100%以上であれば問題ない。100%未満であれば資金繰りが苦しいとされる。

流動比率（%）＝流動資産÷流動負債×100 【例】 $1,100 \div 700 \times 100 = 157.1\%$

③固定長期適合率

固定資産をどの程度、自己資本（純資産合計）と固定負債で賄っているかを示す指標。土地や建物など、この先1年以上換金できない、又は換金しない固定資産を返済義務のない自前の資金である自己資本（純資産合計）と長期で調達したお金（固定負債）でどれだけ賄えるかを見る。100%未満であれば問題ないが、100%以上の場合は固定資産の維持調達について流動負債にも依存していることを示すことから、資金繰りが苦しいと考えられるとされる。

固定長期適合率（%）＝固定資産÷（固定負債＋自己資本）×100 【例】 $900 \div (500 + 800) \times 100 = 69.2\%$

④総資本経常利益率

団体の総合的な収益力を示す指標。団体の総資産（資産合計）に対して、どれだけの経常利益を稼ぎ出しているかを示す。比率が高いほど資本を効率的に運用し、収益を上げている。

総資本経常利益率＝経常利益÷総資産×100 【例】 $200 \div 2,000 \times 100 = 10.0\%$

※補足資料1～4の各比率については小数点第2位を四捨五入とする。

■貸借対照表（例）

【資産の部】	【負債の部】
流動資産	流動負債
現金及び預金 400	買掛金 400
受取手形 500	短期借入金 300
有価証券 200	流動負債合計 700
流動資産合計 1,100	固定負債
固定資産	社債 300
建物及び構築物 200	退職給付引当金 200
土地 500	固定負債合計 500
投資有価証券 200	負債合計 1,200
固定資産合計 900	【純資産の部】
	資本金 600
	利益剰余金 200
	純資産合計 800
資産合計 2,000	負債純資産合計 2,000

■損益計算書（例）

売上高	3,000
売上原価	1,200
売上総利益	1,800
販売費及び一般管理費	1,200
広告	700
人件費	500
営業利益	600
営業外収益	200
受取利息	200
その他	0
営業外費用	600
支払利息	200
社債利息	0
経常利益	200
特別利益	100
外国為替	100
特別損失	50
固定資産売却損	50
税引前当期純利益	250
法人税・住民税等	50
当期純利益	200

5 利用者からの苦情の内容とそれに対する市・指定管理者の対応や市から指定管理者への指導状況

アリーナの照明が暗いとの訴えやアリーナへのエアコン設置の要望、トイレ改修の要望あり。市と指定管理者で協議し、対応を検討している。

6 利用者アンケートの結果

意見箱を設置し、利用者の要望の把握に努めている。
ご利用者との会話を心がけており、会話の中からご意見を確認している。